

『日本政治の第一歩』

(K.O.・30代・公務員)

法学部を卒業して十数年になる地方公務員です。30代半ばともなると、日々の仕事に追われながらも、ふと大学のアカデミックな“香り”が妙に恋しく思われ、少しあの頃に戻ってみたい衝動に駆られます。そんな時に、行政実務とも関連がありそうな本書が目にとまりました。

早速感想ですが、本書は、政治学と行政学のアクチュアルな話題について分かりやすく論じられており、興味を持続したまま最後まで読み進めることができました。特に、第11章はジェンダー的視点から現在の福祉政策を見直すきっかけを与えてくれました。また、第12章はシティズンシップの視点から外国人政策を再考することができ、示唆的でした。この2章だけでも、本書を読む価値は十分あります。

また、公務員の立場から語るとすれば、本書は行政実務に携わっている方々にも十分読みごたえがある内容であり、業務上の政策立案に役立つような知識・考え方をたくさん拾うことができます。または、仕事を忘れて政治・行政に関する現代的問題について思索を深める教養書としても有益だと思います。

『法学教室』2018年11月号(No.458)掲載「Reader's Voice」より